



世界一の親日国タイの“日本離れ”とバンコク日本博の挑戦

バンコク日本博代表・(株)ジェイエデュケーション代表 長谷川 卓生様

株式会社ジェイエデュケーション、バンコク日本博実行委員会代表の長谷川卓生と申します。弊社では、タイで日本語学校の運営や人材紹介、そしてタイ最大級の日本総合展示会「バンコク日本博」の開催を手掛け、日本とタイをつなぐ架け橋として活動しています。今日は、在タイ 27 年の経験を通じて感じたこと、そして今後の展望をお話します。テーマは『世界一の親日国タイの“日本離れ”とバンコク日本博の挑戦』です。

タイは、台湾、インドネシア、フィリピンなどと並ぶ「親日国」の代表格です。その中でもタイの親日度は特筆すべきものがあります。たとえば、2019 年のコロナ禍以前には、年間約 130 万人ものタイ人観光客が日本を訪れ、これは他の東南アジア諸国の観光客数を大きく上回る数字です。また、日本語学習者数では、タイは中国、インドネシア、韓国、オーストラリアに次ぐ第 5 位という位置づけです。さらに、日本食レストランが街中に溢れ、日本関連のイベントが頻繁に開催されていることも、タイにおける日本人気を象徴しています。



しかし、これほどまでに強い「親日感情」を持つタイでさえ、ここ数年で「日本離れ」の兆候が見られ始めています。観光客数は 130 万人から 75% 程度の 99 万人に減少し、日本語学習者も微減しています。さらに、かつてタイ最大の直接投資国だった日本は、現在では中国にその座を奪われつつあり、タイ国内における日本の存在感が希薄になりつつあるのです。この事実は、私たち日本人にとって見過ごせない現象であり、真剣に向き合うべき課題です。



この状況に対し、私たちは 2015 年から「バンコク日本博」という大規模な展示会を開催し、タイの人々に日本の多様な魅力を伝える活動を行ってきました。この展示会は、旅行、食、コンテンツ、エンターテインメント、留学、就職など多岐にわたる分野を網羅し、タイ市場における日本企業や団体の存在感を強化する場として機能しています。単なる「お祭り」ではなく、ビジネスや文化交流における「ソリューション」としての役割を果たすことを目指しています。



開催日時
2025年8月29日(金)~31日(日)
11:00~20:00

会場
クイーンシリキット国際展示場



2025 年のバンコク日本博では、さらに規模を拡大する計画です。これまでの旅行や食、コンテンツといった分野に加えて、新たに食材、美容健康、酒をテーマとした分野を加えます。また、会場の広さもこれまでの約倍に拡大し、より多くの来場者に多彩な日本の魅力を楽しんでいただくだけでなく、その魅力を力強く訴え、心に響かせる場を提供します。

日本人気を支えてきた要素は、時代とともに変化してきました。かつては「メイドインジャパン」という経済大国のブランド力が中心でしたが、今ではアニメや漫画、音楽といったコンテンツがその役割を担い、現在は旅行や食文化が主軸となっています。そしてこれからの日本を支える要素は何か。それは、今私たちがどのように発信していくかにかかっています。

この挑戦は、私たちだけで成し遂げられるものではありません。タイにおける日本の存在感を守り続けるためには、多くの日本人や日本の団体が力を合わせる必要があります。お茶の水ロータリークラブの皆様も、ぜひこの問題意識を共有し、タイの人々にどのような形で日本の魅力を届けることができるか、一緒に考えていただければと思います。

バンコク日本博は単なる展示会ではありません。それは日本が世界で再び輝きを放つための「プラットフォーム」です。そして、日本が再びその輝きを取り戻すためには、私たち一人ひとりが行動することが不可欠です。その一歩を、どうか皆様とともに踏み出したいと願っています。

